

株式会社福島銀行の会社説明会



2010年6月25日(金)
大和コンファレンスホール

(説明者) 取締役社長 紺野 邦武

目 次

I. 福島県経済の動向	2
II. 2010年3月期決算		
1. 要約	5
2. 営業	6
3. 損益	9
4. 財務内容	11
III. 今期の見通し	17
IV. やや長い目でみた動向		
1. 収益性	18
2. 健全性	20
V. 参考	22

数字は原則として単体ベース、単位未満切捨て

I. 福島県経済の動向

1. 実体経済

県人口

(単位:千人)

	人口	増減	増減	
			自然増減	社会増減
2005年10月1日	2,091	▲ 13	▲ 4	▲ 8
06年10月1日	2,080	▲ 11	▲ 3	▲ 8
07年10月1日	2,068	▲ 12	▲ 4	▲ 8
08年10月1日	2,055	▲ 13	▲ 4	▲ 8
09年10月1日	2,042	▲ 13	▲ 5	▲ 7

県内地価(公示価格)

(単位:前年比 %)

	商業地	住宅地
2006年1月1日	▲ 5.7	▲ 4.2
07年1月1日	▲ 3.8	▲ 3.1
08年1月1日	▲ 3.0	▲ 2.5
09年1月1日	▲ 4.1	▲ 3.1
10年1月1日	▲ 4.9	▲ 3.7

県内有効求人倍率

(単位:倍)

	有効求人倍率
2006年平均	0.89
07年平均	0.89
08年平均	0.68
09年平均	0.36
10年4月	0.38

県内への工場立地

(単位:件)

	工場立地件数
2005年	88
06年	103
07年	100
08年	75
09年	23

県内企業倒産

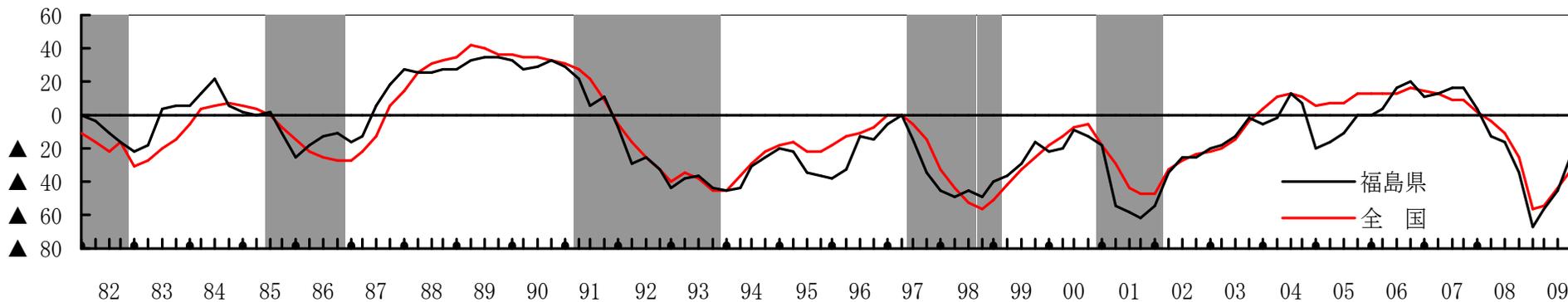
(負債総額10百万円以上、単位:百万円)

	件数	負債総額
2005年	140	69,829
06年	143	76,316
07年	161	132,392
08年	205	67,093
09年	145	33,357

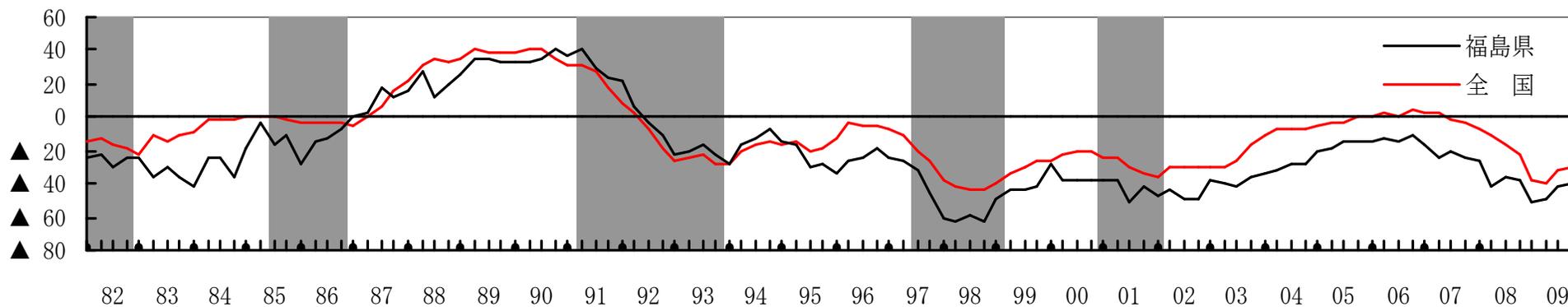
(商工リサーチ調べ)

業況判断D・I(日銀短観)

製造業



非製造業



※シャドーは景気後退期(内閣府調べ)

2. 福島県内の金融機関別預金、貸出金シェア(2009年3月末)

(単位:億円、%)

	県内預金		県内貸出金	
	残高	シェア	残高	シェア
地元銀行	38,415	48.4	23,986	53.2
当行	5,357	6.8	4,214	9.3
東邦銀行	27,088	34.1	15,818	35.1
大東銀行	5,970	7.5	3,954	8.8
県外本店銀行	8,439	10.6	5,370	11.9
信用金庫	12,751	16.1	6,737	14.9
信用組合	4,366	5.5	3,037	6.7
労働金庫	3,277	4.1	2,474	5.5
農協	12,183	15.3	3,529	7.8
合計	79,431	100.0	45,133	100.0

(注)ニッキン調べ。ゆうちょ銀行を除く

Ⅱ. 2010年3月期決算

1. 要約

(福島県経済)

- 製造業が回復に転じている一方、非製造業は低迷。
- 企業倒産は小康状態。

(当行の決算)

- 前年比大幅増益。純利益は3億円と黒字に復帰。
- 不良債権処理費用は増加したが、有価証券関係損益が大幅に改善。
- 貸出の減少、利鞘の縮小など収益基調は不芳。
- 11年3月期の純利益は15億円程度と増益を予想。

(財務内容)

- 不良債権比率は低下。
- 自己資本比率は上昇。

(配当)

- 10年3月期は年1円と僅かながら復配。
- 11年3月期は年1円50銭に増配の予定。

10年3月期決算

(単位:百万円)

		10年3月期	09年3月期	前年比
単 体	経常収益	15,823	14,985	838
	経常利益	85	△ 3,934	4,019
	純利益	300	△ 3,286	3,586
連 結	経常収益	18,320	17,606	714
	経常利益	241	△ 3,796	4,037
	純利益	388	△ 3,285	3,673

有価証券関係損益

(単位:百万円)

	10/3月期	09/3月期	前年比
債券5勘定	583	△ 2,174	2,757
株式3勘定	△ 1,632	△ 2,447	815
合 計	△ 1,049	△ 4,621	3,572

2. 営業

(1) 預金

○預金は09年度中30億円減少し、10年3月末の残高は5,699億円、前年比0.5%の減少。

○預金者別にみると、一般法人預金が増加した一方、個人預金は減少。

○期間別にみると、流動性預金が増加した一方、定期性預金は減少。

09年度の預金動向

(単位:億円)

		増 減		3月末残高	
			前年		前年比%
預金者別	個人	▲ 39	2	4,581	▲ 0.9
	一般法人	13	▲ 21	892	1.5
	地公体等	▲ 3	▲ 22	225	▲ 1.7
期間別	流動性	63	▲ 28	1,968	3.3
	定期性	▲ 93	▲ 13	3,730	▲ 2.4
合 計		▲ 30	▲ 41	5,699	▲ 0.5

(2) 窓販

○09年度中の窓販は下期に入り回復に転じ、とくに投信は69億円と前年比64%増。

○3月末の預り資産残高は738億円、前年比12.5%の増加。

09年度の窓販動向

(単位:億円)

		窓 販 額		3月末預り資産残高	
			前年		前年比%
投	信	69	42	389	24.2
保	険	22	18	270	1.8
公	共 債	8	11	78	2.6
合	計	100	72	738	12.5

(3) 貸出

○貸出は09年度中41億円減少し、3月末の残高は4,458億円、前年比0.9%の減少。

○3月末の貸出平均金利(残高ベース)は2.362%、前年比0.156%ポイントの低下。

○住宅ローンと地方公共団体向けは増加したが、事業性が減少。

○中小企業向け貸出は09年度中80億円減少し、3月末の残高は1,942億円、前年比4.0%の減少。
銀行に対する借入需要の低迷による。

○09年度の預貸率は末残78.2%(前年78.5%)、平残77.0%(同76.6%)。

09年度の貸出動向

(単位:億円)

	増 減		3月末残高	
		前年		前年比%
消 費 性	37	73	1,419	2.7
住宅ローン	46	87	1,273	3.8
事 業 性	▲ 63	▲ 62	2,540	▲ 2.4
保証協会	2	60	510	0.5
地 公 体	55	19	347	19.1
その他とも合計	▲ 41	73	4,458	▲ 0.9

事業性貸出の動向

(単位:億円)

	増 減		残 高		残高前年比%	
		うち中小企業		うち中小企業		うち中小企業
07年度	▲ 309	▲ 264	2,666	2,054	▲ 10.4	▲ 11.4
08年度	▲ 62	▲ 31	2,603	2,023	▲ 2.3	▲ 1.5
09年度	▲ 63	▲ 80	2,540	1,942	▲ 2.4	▲ 4.0
上期	▲ 56	▲ 44	2,547	1,978	▲ 2.1	▲ 2.2
下期	▲ 7	▲ 36	2,540	1,942	▲ 2.4	▲ 4.0

(注) 中小企業貸出には個人企業向け事業性貸出を含む。

(4) 有価証券

- 有価証券は債券を中心に09年度中51億円増加し、3月末の残高は1,015億円、前年比5.3%の増加。
- 保有債券の中では事業債が増加。債券のデュレーションは2.0年と若干短期化(前年2.3年)。
- 持合上場株は21銘柄 43億円と前年比5銘柄、5億円の減少。
- 3月末の「その他有価証券」の含み損は7億円の減少。
- 09年度の預証率は末残17.8%(前年16.8%)、平残19.2%(同19.2%)。

「その他有価証券」の含み損益

(単位:百万円)

	合計			
	債券	株式	投信等	
08/3月末	△ 1,371	△ 2,083	△ 1,166	△ 4,621
09/3月末	△ 114	△ 1,438	△ 1,979	△ 3,532
10/3月末	381	△ 234	△ 865	△ 718
最近(6/15)	575	△ 630	△ 1,228	△ 1,283

09年度の有価証券動向

(単位:億円)

	増減		3月末残高	
		前年		前年比%
債券	49	▲ 90	890	5.8
株式	0	▲ 15	65	▲ 0.1
投信等	2	▲ 28	59	3.8
合計	51	▲ 133	1,015	5.3

保有債券の内訳

(単位:億円)

		09年度中増減		10/3月末残高	
			前年		前年比%
発行者別	国内債	35	▲ 53	713	5.2
	うち 国債	32	▲ 105	508	6.9
	事業債	78	5	111	3.3倍
	外国債	13	▲ 36	176	8.4
残存期間別	1年未満	▲ 58	▲ 119	156	▲ 27.1
	1年以上5年未満	134	▲ 33	447	42.7
	5年以上10年未満	70	52	174	67.4
	10年以上	▲ 97	10	111	▲ 46.5
合計		49	▲ 90	890	5.8

3. 損益

(1) 業務純益

○実質業務純益(一般貸倒引当金を除く業務純益)は44億円と前年比29億円の増加。市場金利低下の中、債券5勘定的大幅改善(前年△21億円→当期5億円)が主因。

○相対型営業の成果を示すコア業務純益(債券5勘定を除く実質業務純益)も38億円と前年比1億円の増加。

○ただ、コア業務純益の基調は不芳。

- ・貸出金利息は前年比6億円の減少。
貸出利回りの低下(2.43%、前年比0.14%ポイント低下)が主因。
- ・預金利息は前年比5億円の減少。
預金利回りの低下(0.27%、前年比0.10%ポイント低下)が主因。
- ・窓販手数料は前年比微増。
- ・営業経費は前年比3億円の増加。
店舗リニューアル、事務機器の更新に伴う物件費の増加による。

(単位:百万円)

	10/3月期	09/3月期	前年比
資金利益	10,348	10,223	125
貸出金利息	10,429	11,065	▲ 636
有価証券利息配当金	1,574	1,296	278
預金利息	1,549	2,138	▲ 589
役務取引等利益	807	916	▲ 109
窓販手数料	445	407	38
債券5勘定※ A	583	△ 2,174	2,757
売却損益	893	61	832
債券償却	297	1,977	▲ 1,680
その他の業務収益	466	0	466
営業経費	7,736	7,430	306
人件費	3,438	3,545	▲ 107
物件費	3,754	3,397	357
実質業務純益 B	4,479	1,549	2,930
コア業務純益 B-A	3,896	3,724	172

※債券5勘定＝国債等債券売却益、償還益、売却損、償還損、償却

(2) 純利益

(単位:百万円)

○経常利益は85百万円と前年比40億円の増加。

実質業務純益が増加したうえ、株式の償却が減少した(前年24億円→当期16億円)ことによる。

○不良債権処理費用は28億円と前年比1億円の増加。

当行の不良債権処理費用は不良債権残高の減少から基調的には減少過程にあるが、当期は大口倒産の影響で若干の増加。

(注)穴吹工務店が昨年11月会社更生法を申請(当行の同社向け債権19億円)したことから一般貸倒引当金を含め25億円を追加引当。

○償却債権取立益は4億円と前年比2億円の増加。

○この結果、純利益は3億円と前年を35億円上回り、2年ぶりに黒字に復帰した。

	10/3月期	09/3月期	前年比
実質業務純益	4,479	1,549	2,930
不良債権処理費用	2,892	2,712	180
貸倒引当金繰入(△戻入)	1,307	△ 261	1,568
貸出金償却・売却損	1,584	2,974	▲ 1,390
株式3勘定※	△ 1,632	△ 2,447	815
売却損益	13	20	▲ 7
株式償却	1,645	2,468	▲ 823
経常利益	85	△ 3,934	4,019
償却債権取立益	434	233	201
固定資産処分損	65	28	37
固定資産減損損失	131	15	116
純利益	300	△ 3,286	3,586

※株式3勘定＝株式等売却益、売却損、償却

4. 財務内容

(1) 不良債権

○3月末の不良債権(金融再生法開示基準)は196億円と前年比9億円の減少。

○与信残高は4,488億円と前年比44億円の減少。

○この結果、3月末の不良債権比率は4.38%に低下。

(単位:億円)

	10/3月末	09/3月末	前年比
不良債権(A)	196	205	▲ 9
破産・更生等債権	116	105	11
危険債権	74	88	▲ 14
要管理債権	6	11	▲ 5
正常債権	4,291	4,326	▲ 35
総与信(B)	4,488	4,532	▲ 44
不良債権比率(A/B)	4.38%	4.54%	▲0.16%

○不良債権比率は低下傾向を続けているが、低下テンポは近年鈍化(20ページ参照)。

また、不良債権から正常債権へのランクアップが少ない一方、逆にランクダウンの動きは高水準を続けており、中小企業の業況は依然厳しいように窺われる。

不良債権の増減要因

(単位:億円)

	10/3月期	09/3月期	08/3月期
正常債権への 上方シフト	▲ 14	▲ 39	▲ 16
正常債権からの 下方シフト	65	65	74
償 却	▲ 20	▲ 50	▲ 43
売 却	0	0	▲ 10
返済・回収	▲ 39	▲ 38	▲ 45
合 計	▲ 9	▲ 62	▲ 40

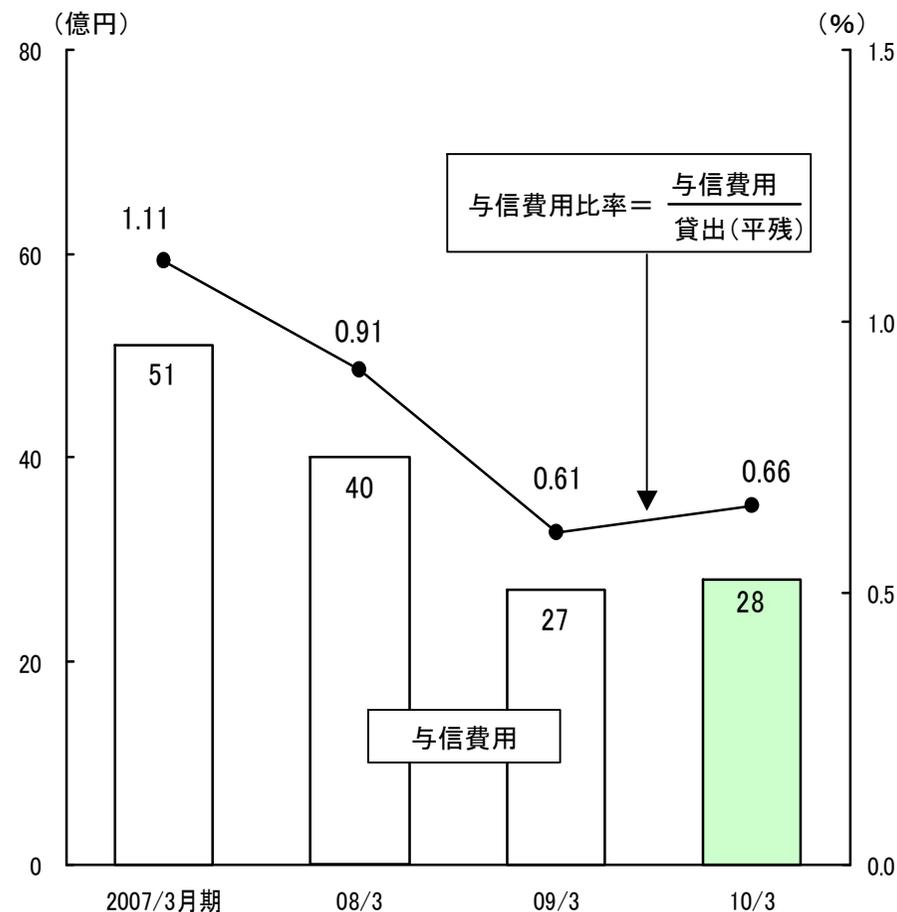
○不良債権に対する担保・保証、引当金による保全率は91.1%と不良債権に対する備えは十分。

○与信費用比率は0.66%(前年0.61%)と依然高水準。

不良債権の保全状況(10年3月末)

(単位:億円)

	不良債権額 A	保全額 B		保全率 % B/A	
		担保・保証	引当金		
破産・更生等債権	116	116	91	25	100.0
危険債権	74	59	40	18	79.8
要管理債権	6	3	3	0	62.3
合計	196	179	134	44	91.1



(注)与信費用=貸倒引当金繰入額+貸出金償却+債権売却損

○業種別の不良債権比率をみると、製造業が低下した一方、建設業、不動産業、サービス業は依然高水準。

業種別の不良債権動向(10年3月末)

(単位:百万円、%)

業種	貸出残高		リスク管理債権残高		不良債権比率	
	A	前年比	B	前年比	B/A	前年比
製造業	34,147	1,234	1,362	▲ 1,082	3.9	▲ 3.5
建設業	27,684	▲ 4,424	2,850	19	10.2	1.4
情報通信業	2,881	13	167	▲ 3	5.7	▲ 0.2
運輸業・郵便業	15,414	2,567	272	▲ 326	1.7	▲ 2.9
卸売業・小売業	43,249	2,296	2,767	▲ 815	6.3	▲ 2.4
金融業・保険業	22,689	▲ 11,959	21	▲ 13	0.0	0.0
不動産業・物品賃貸業	45,602	14,222	4,810	2,077	10.5	1.8
各種サービス業	57,823	▲ 6,220	4,966	▲ 451	8.5	0.1
国・地方公共団体	39,277	4,580	-	-	-	-
個人その他	157,118	▲ 6,414	2,327	▲ 279	1.4	▲ 0.1
合計	445,884	▲ 4,105	19,546	▲ 869	4.3	▲ 0.2

(注)日本標準産業分類の改訂に伴い、09年6月末から業種の分類を変更しており、不動産業・物品賃貸業と各種サービス業については前年と連続しない。

(2) 自己資本

○3月末の自己資本(BIS国内基準)は311億円と前年比2億円の減少。

○これは劣後債の減少(40億円を期限前償還の一方、37億円を発行)によるもので、Tier I は内部留保の増加から242億円と前年比2億円の増加。

○リスクアセットは貸出の減少から57億円の減少。

○この結果、3月末の自己資本比率は9.75%、Tier I 比率は7.60%に上昇。

○「その他有価証券」の含み損を考慮した「実質自己資本比率」は9.52%、「実質Tier I 比率」は7.37%と大幅に上昇。

(参考) 連結ベース

(単位:%)

	10/3月末	09/3月末
自己資本比率	9.72	9.59
Tier I 比率	7.58	7.35
実質自己資本比率	9.50	8.51
実質Tier I 比率	7.35	6.27

(単位:億円、%)

	10/3月末	09/3月末	前年比
自己資本 A	311	313	▲ 2
Tier I (中核的資本) B	242	240	2
Tier II (補完的資本)	69	73	▲ 3
うち劣後債	37	40	▲ 3
控除項目	▲ 1	-	▲ 1
リスクアセット C	3,189	3,246	▲ 57
信用リスクアセット	2,965	3,008	▲ 43
うち貸出	2,480	2,583	▲ 103
オペレーショナルリスクアセット	223	237	▲ 14
自己資本比率 A/C	9.75	9.65	0.10
Tier I 比率 B/C	7.60	7.40	0.20

(単位:%)

実質自己資本比率	9.52	8.56	0.96
実質Tier I 比率	7.37	6.31	1.06

○3月末の統合リスク量は117億円と前年比44億円の減少。

—金融市場の安定化から市場リスクと金利リスクが大幅に減少。

○これはTier I (242億円)の約半分で、貸出など営業活動を展開していく上で自己資本の制約は現状ない。

○アウトライヤー規制における3月末の金利リスク量は52億円で自己資本の16.8%(前年19.9%)。

(注)統合リスク量=信用リスク、市場リスク、金利リスク、オペレーショナルリスクの単純合計。

・信用リスク、市場リスク、金利リスクはVaR(一定期間に一定確率で被り得る最大損失額)による。

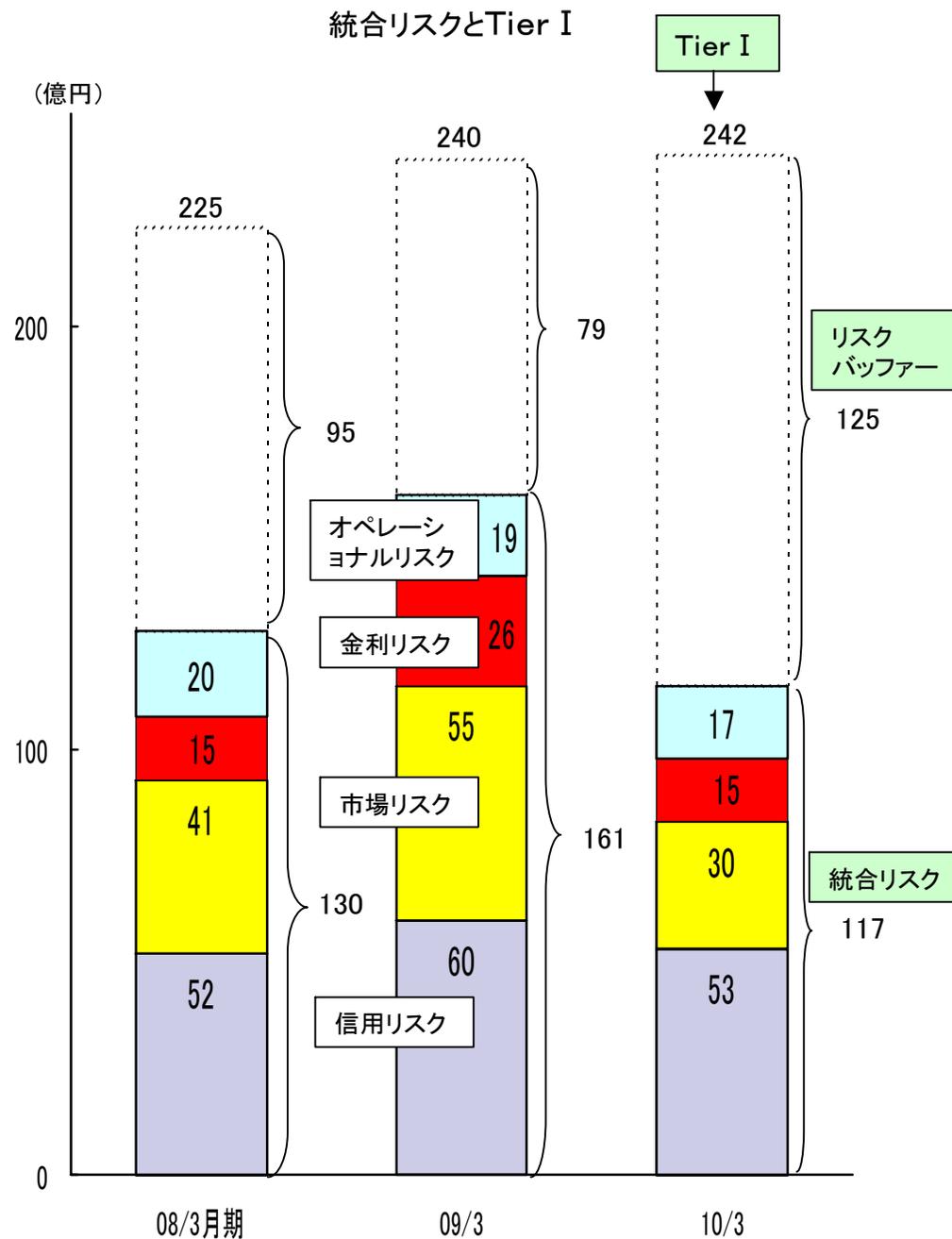
VaRの計測方法一観測期間1年、信頼水準99%、保有期間は次のとおり。

信用リスク: 1年(240日)

市場リスク: 政策投資株式・満期保有目的債券・仕組ローン各120日
 売買目的有価証券10日、その他有価証券60日

金利リスク: 半年(120日)

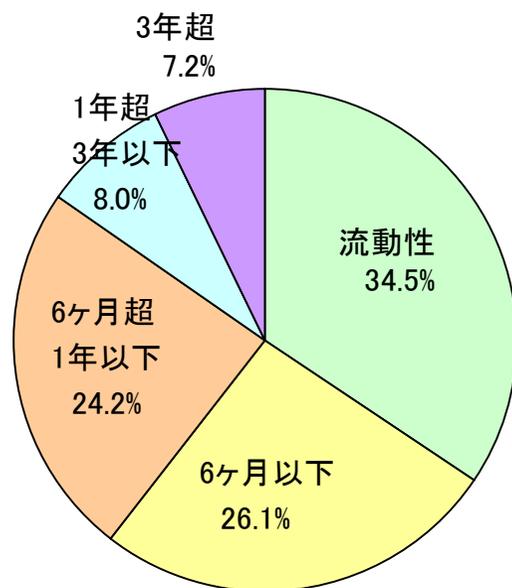
・オペレーショナルリスクは基礎的手法(年間業務粗利益の15%)による。



○10年3月末現在で主な資産、負債の期間別構成をみると、当行の特徴は次のとおり。

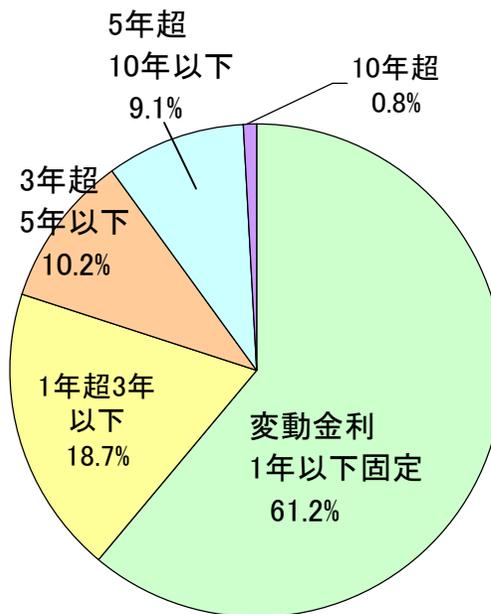
預金の残存期間別構成

—定期預金のウェイトが大きい。



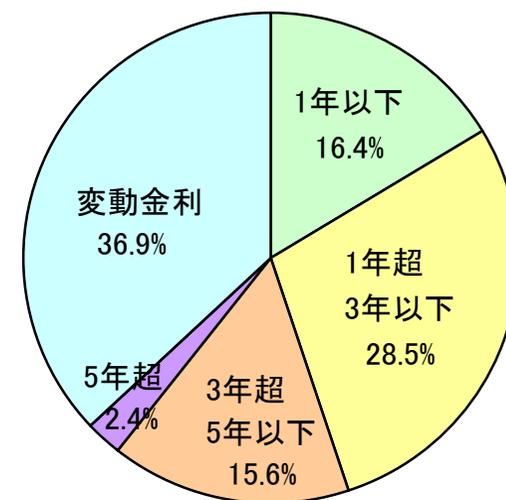
貸出の金利更改期別構成

—中長期固定金利貸出のウェイトが小さい。



債券の残存期間別構成

—短中期債のウェイトが大きい。
—デュレーションは2.038
(前年は2.314)。



Ⅲ. 今期の見通し

11年3月期予想

(単位:百万円)

○11年3月期については、純利益15億円程度(前期3億円)と増益を予想。

－不良債権処理費用と株式償却が減少の見込み。

－11年3月の株価は10年4月末で横ばいと前提。

○11年3月末の不良債権比率は4%程度、自己資本比率は10%程度と一段の改善を予想。

○11年3月期の配当は1株当り年1円50銭に増配する予定。

－10年3月期の配当は当初予定どおり年1円。

		09/3月期 実績	10/3月期 実績	11/3月期 予想
単 体	経 常 収 益	14,985	15,823	14,000
	経 常 利 益	▲ 3,934	85	1,200
	純 利 益	▲ 3,286	300	1,500
連 結	経 常 収 益	17,606	18,320	16,500
	経 常 利 益	▲ 3,796	241	1,200
	純 利 益	▲ 3,285	388	1,500

(参考)10年9月中間期予想

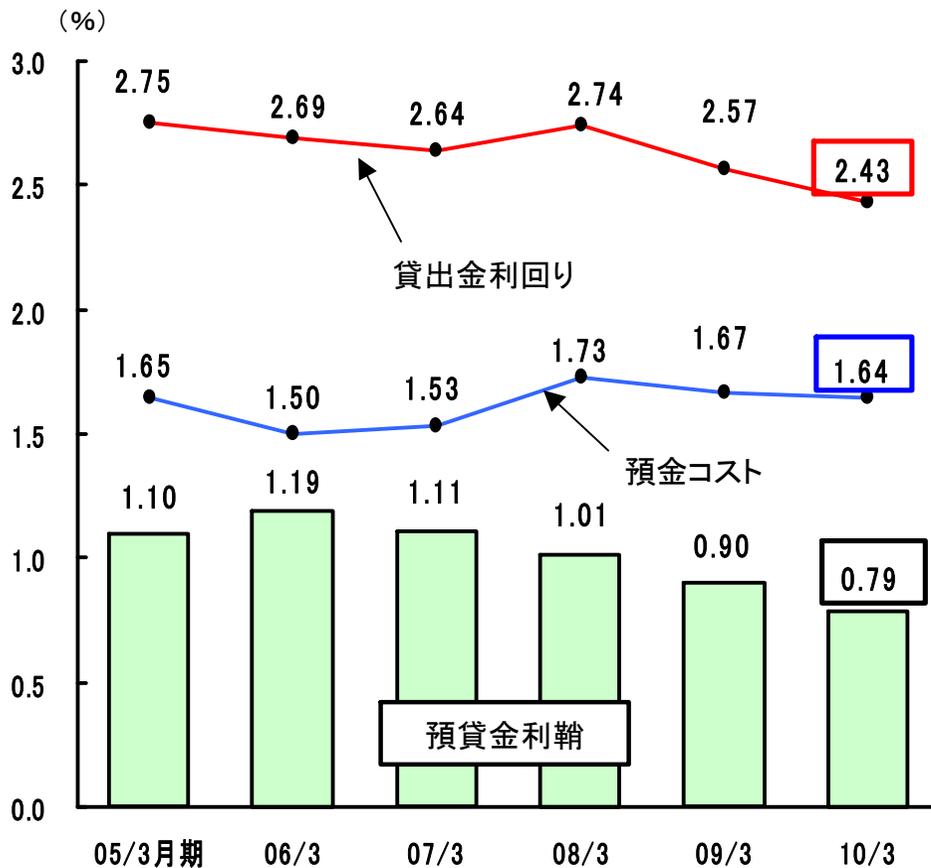
(単位:百万円)

		10/9月期 予想	前年同期 実績
単 体	経 常 収 益	7,000	7,446
	経 常 利 益	600	162
	純 利 益	700	322
連 結	経 常 収 益	8,200	8,871
	経 常 利 益	600	329
	純 利 益	700	454

IV. やや長い目でみた動向

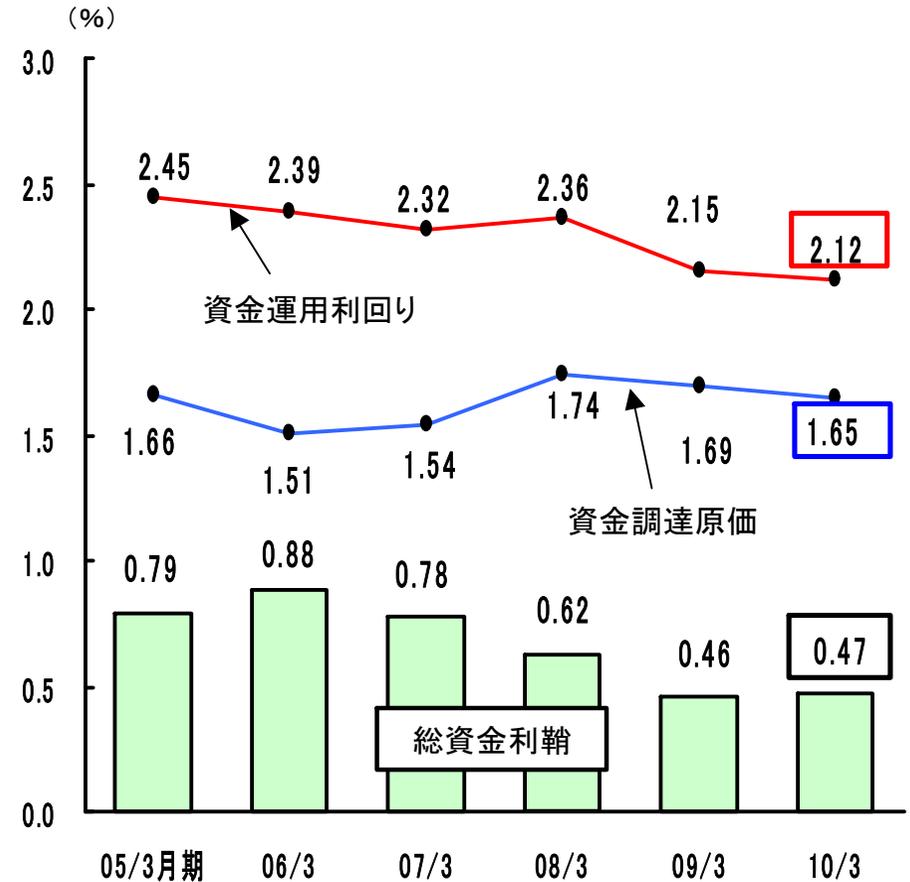
1. 収益性

○利鞘は貸出金利の低下から縮小傾向。



(参考) 預金利回り

06/3月期	07/3	08/3	09/3	10/3
0.08	0.15	0.33	0.37	0.27

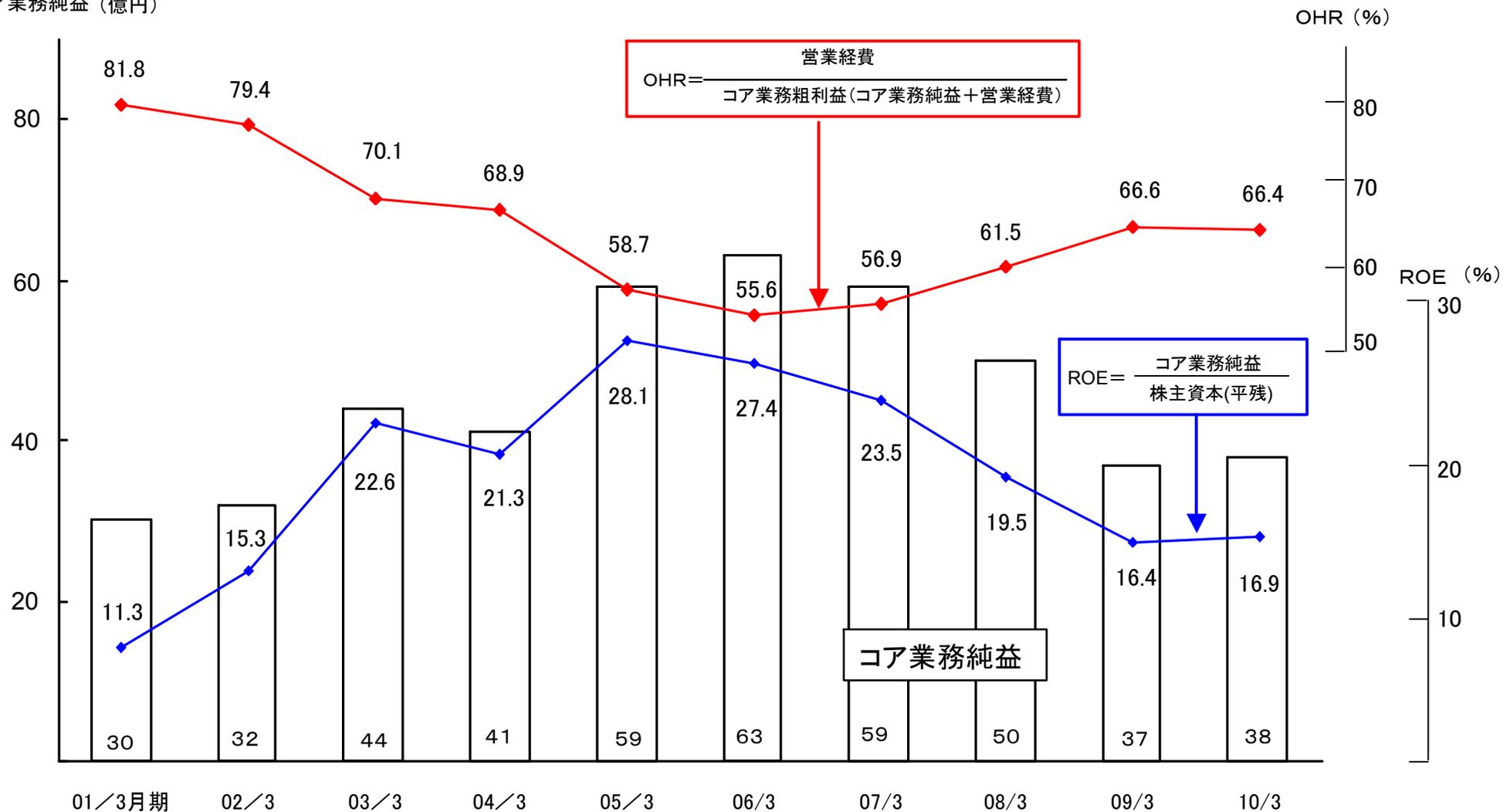


(参考) 有価証券利回り

06/3月期	07/3	08/3	09/3	10/3
1.25	1.32	1.39	1.17	1.45

○ コア業務純益は近年減少。 ROE(株主資本利益率)、OHR(営業経费率)も近年悪化。

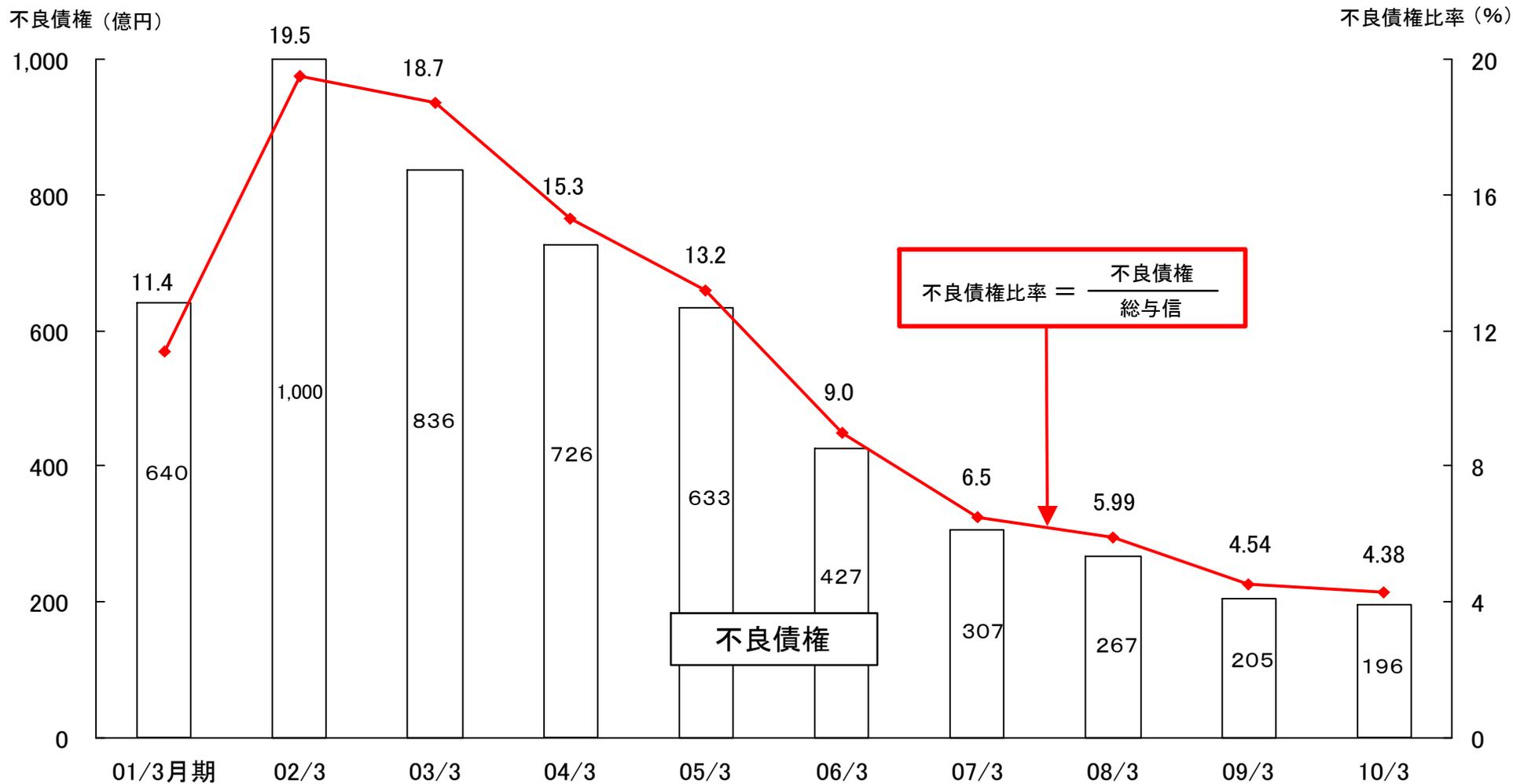
コア業務純益 (億円)



2. 健全性

○不良債権は大幅に減少(ピーク02年9月末1,043億円→10年3月末196億円)。

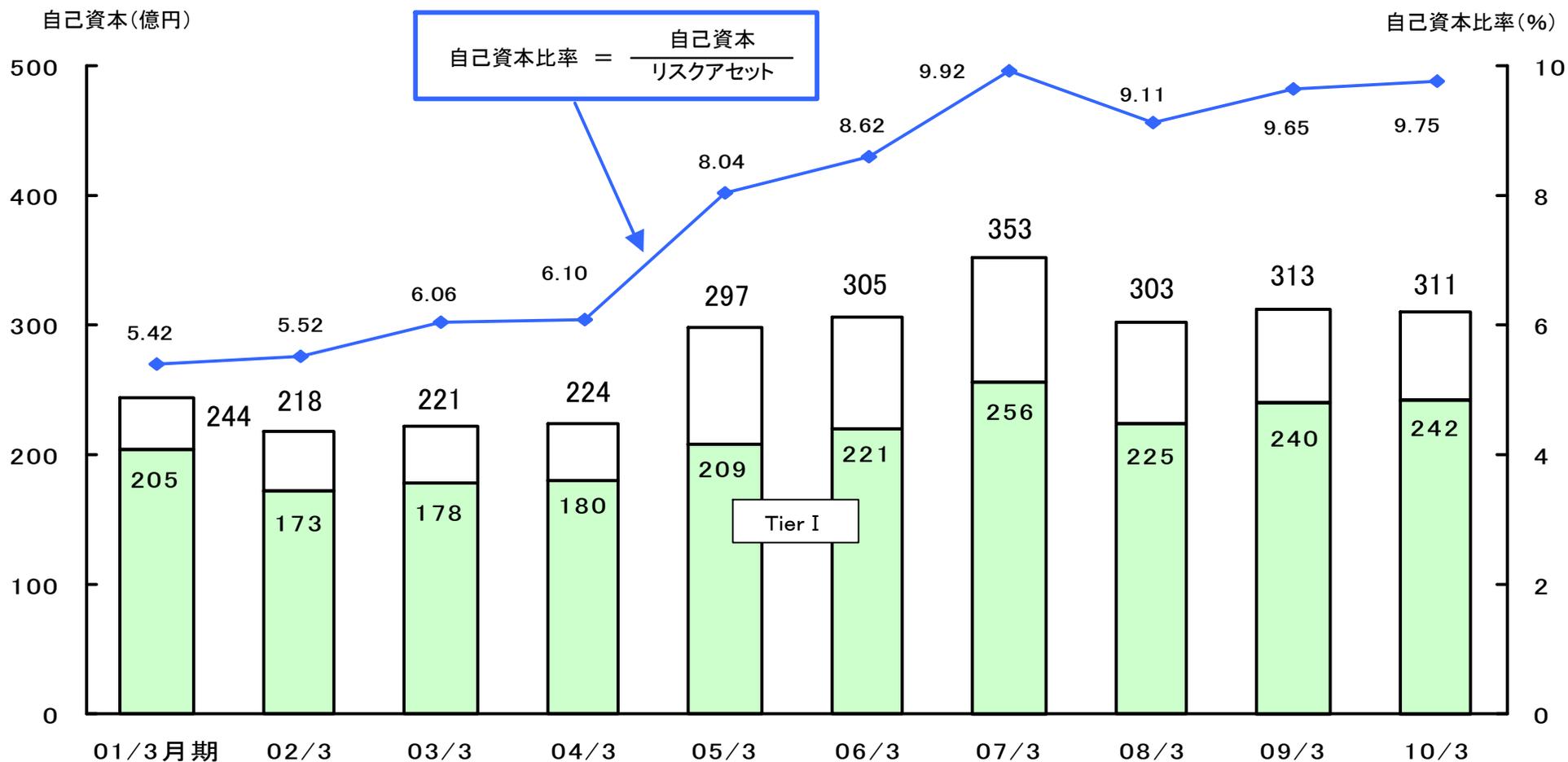
○不良債権比率も大幅に低下(ピーク02年9月末19.6%→10年3月末4.38%)。



○自己資本は外部調達、利益の内部留保から着実に増加。
 ○つれて自己資本比率も着実に上昇。

(参考)資本の外部調達

02年3月	第三者割当増資	146億円
04年9月	新株予約権付社債	20億円
05年3月	劣後社債	45億円
06年9月	新株予約権付社債	45億円
10年3月	劣後社債	37億円



V. 参考

1. 中期経営計画(08～10年度)

○現行「地力強化計画」の3本柱

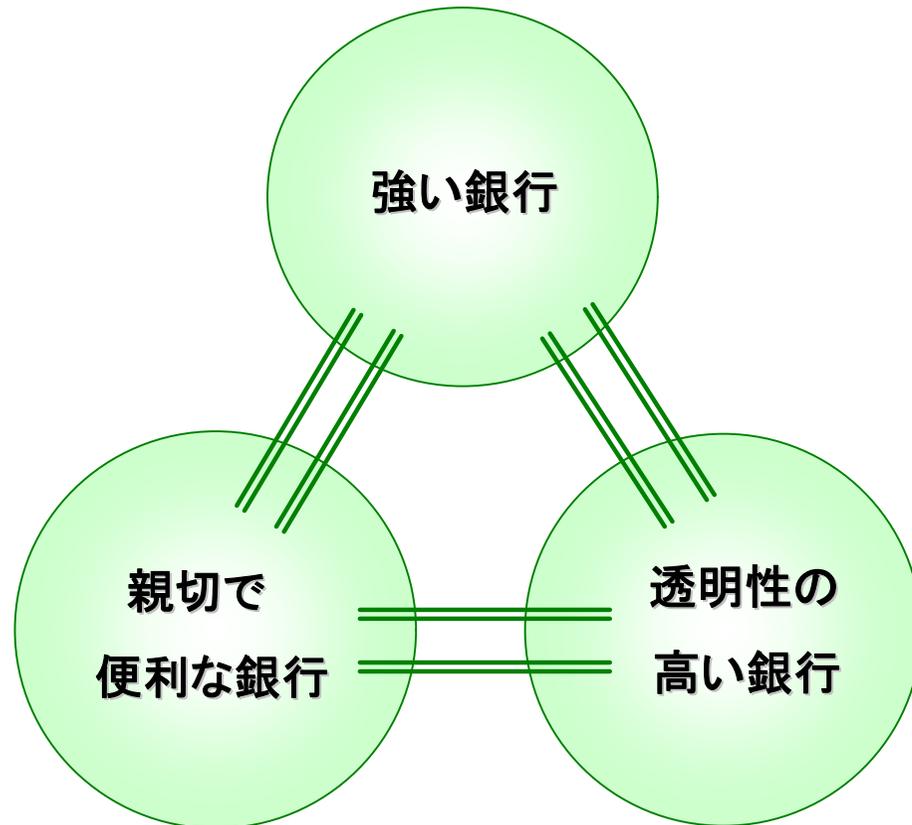
3 本 柱	主 な 具 体 的 取 組 み 事 項
①現場力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・提案営業の高度化と取引先企業支援の強化。 ・インターネットバンキング、コールセンターの拡充。 ・店舗のリニューアル、事務フローの見直し、事務機器の更新。
②人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・透明性・公平性・合理性の理念に立った新人事制度の導入。 ・営業店の営業と事務を中心とした人材高度化プログラムの策定と推進。
③業務の高度化	<ul style="list-style-type: none"> ・営業店収益管理の高度化。 ・信用リスク管理の精緻化、市場リスク管理の高度化、ALM機能の充実。

○数値目標

		2011年3月期 目標	(参考) 10/3月期実績
収 益	コア業務純益	50億円	38億円
	経常利益	25億円	0.8億円
財 務	不良債権比率	4.0%	4.3%
	自己資本比率	10.5%	9.7%

2. ビジョン

〇02年度以来、次の3大ビジョンを掲げている。



①強い銀行

- 如何なる経済情勢にも耐えられる収益力の強い銀行。

②親切で便利な銀行

- お客様満足度が高くお客様から選ばれる銀行。

③透明性の高い銀行

- 情報の提供に積極的で、経営実態が外から見えるオープンな銀行。

3. 株主

株主数 16,973名(10年3月末)

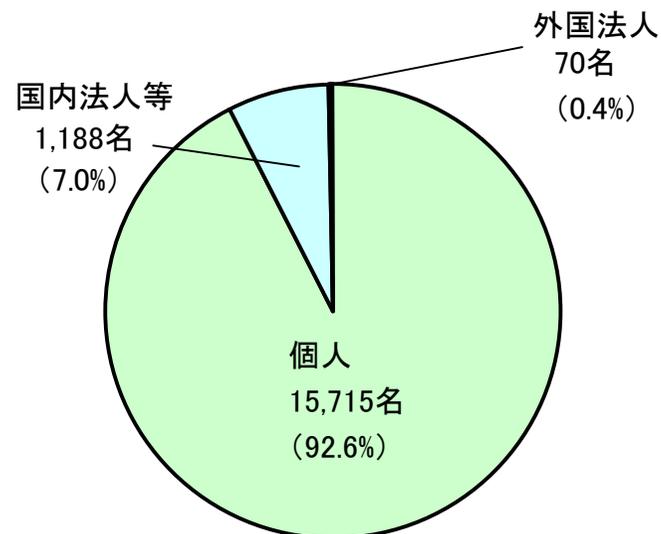
発行済株式数 230百万株(10年3月末)

大株主(上位10名)

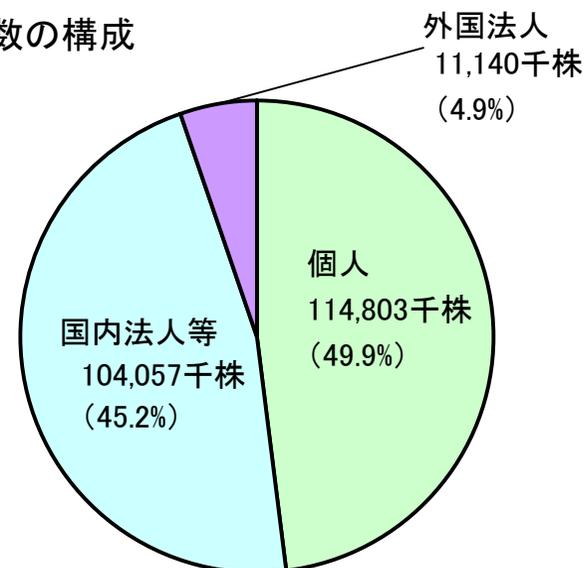
(単位:千株、%)

	株主名	持株数	持株比率
1	日本トラスティ・サービス 信託銀行(株)(信託口4)	6,493	2.82
2	日本トラスティ・サービス 信託銀行(株)(信託口)	6,339	2.76
3	(株)アラジン	3,837	1.67
4	福島銀行従業員持株会	3,621	1.57
5	(株)東北サファリパーク	3,562	1.55
6	(株)栃木銀行	3,135	1.36
7	日本マスタートラスト信託 銀行(株)(信託口)	2,841	1.24
8	東京海上日動火災保険(株)	2,327	1.01
9	(株)東邦銀行	2,063	0.90
10	日本トラスティ・サービス 信託銀行(株)(信託口6)	1,744	0.76

株主数の構成



株式数の構成



4. 役員

取締役(任期1年)

	略 歴
社 長 紺野 邦武	1943年3月 福島県福島市生れ(67歳) 日本銀行、大阪銀行協会を経て 2001年4月 当行顧問 01年6月 代表取締役副社長 02年6月 代表取締役社長
企画本部長 菅野 則夫	1955年4月 福島県福島市生れ(55歳) 78年4月 当行入行 総合企画部課長、経営企画部長等を経て 2003年6月 取締役 05年6月 代表取締役常務 08年6月 代表取締役専務
営業本部長 和知 昭	1952年8月 福島県東白川郡棚倉町生れ(57歳) 71年4月 当行入行 白河支店長、平支店長等を経て 2005年6月 取締役 07年6月 常務取締役 08年6月 代表取締役常務
管理本部長 久能 敏光	1956年9月 福島県福島市生れ(53歳) 80年4月 当行入行 経営管理リーダー、営業本部長等を経て 2010年6月 取締役

執行役員(任期1年)

	略 歴
本店営業部長 遠藤 久志	1952年5月 福島県郡山市生れ(58歳) 75年4月 当行入行 会津支店長、経営管理リーダー等を経て 2008年6月 執行役員 10年6月 常務執行役員
郡山営業部長 鈴木 弘志	1952年9月 福島県白河市生れ(57歳) 76年4月 当行入行 与信管理リーダー、平支店長等を経て 2010年6月 常務執行役員
平支店長 齋藤 郁雄	1954年8月 福島県福島市生れ(55歳) 野村証券投資信託販売、国際証券を経て 91年3月 当行入行 リスク統括リーダー、市場営業リーダー等 を経て 2008年6月 執行役員
業務本部長 白石 敏次	1953年2月 福島県東白川郡塙町生れ(57歳) 71年4月 当行入行 営業事務リーダー、総務本部長等を経て 2010年6月 執行役員

監査役(任期4年)

	略 歴
監査役 須藤 晃秀	1952年3月 福島県郡山市生れ(58歳) 74年4月 当行入行 経営管理リーダー、総務リーダー等を経て 2008年6月 監査役(常勤)
監査役 長谷川 茂樹	1953年4月 福島県会津若松市生れ(57歳) 76年4月 当行入行 監査リーダー、総務リーダー等を経て 2009年6月 監査役(常勤)
社外監査役 安齋 利昭 (独立役員)	1940年4月 福島県伊達郡桑折町生れ(70歳) 69年4月 弁護士登録 86年5月 東北弁護士連合会副会長 2003年6月 当行監査役(非常勤)
社外監査役 相良 勝利 (独立役員)	1942年4月 福島県伊達郡川俣町生れ(68歳) 83年4月 福島大学経済学部教授 2008年4月 福島大学名誉教授 石巻専修大学経営学部教授 08年6月 当行監査役(非常勤)

5. 従業員

従業員数の推移

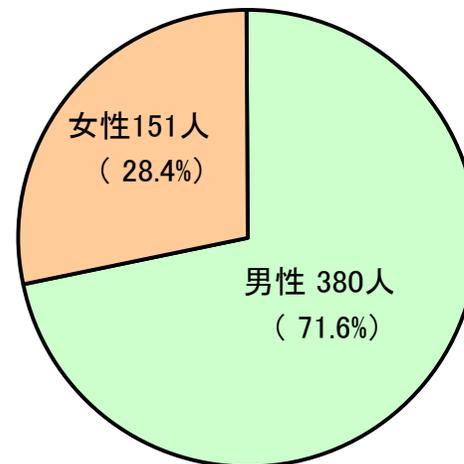
(単位:人)

	社 員			準 社 員	従業員数 期中平均
	採 用	退 職			
2000年度末	1,012	7	80	230	1,239
01年度末	905	16	123	260	1,234
02年度末	727	24	202	282	1,062
03年度末	671	0	56	302	1,000
04年度末	604	0	67	259	915
05年度末	570	11	45	255	839
06年度末	543	15	42	242	804
07年度末	531	23	35	253	787
08年度末	531	36	36	266	798
09年度末	531	39	39	268	808

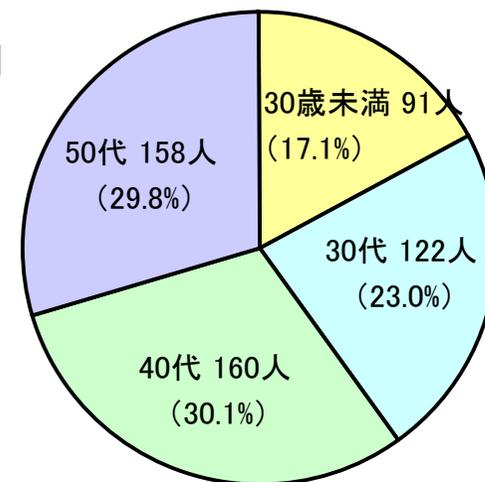
(注)準社員はパートタイマー、アルバイト、契約社員等。

社員の構成(10年3月末)

男女別

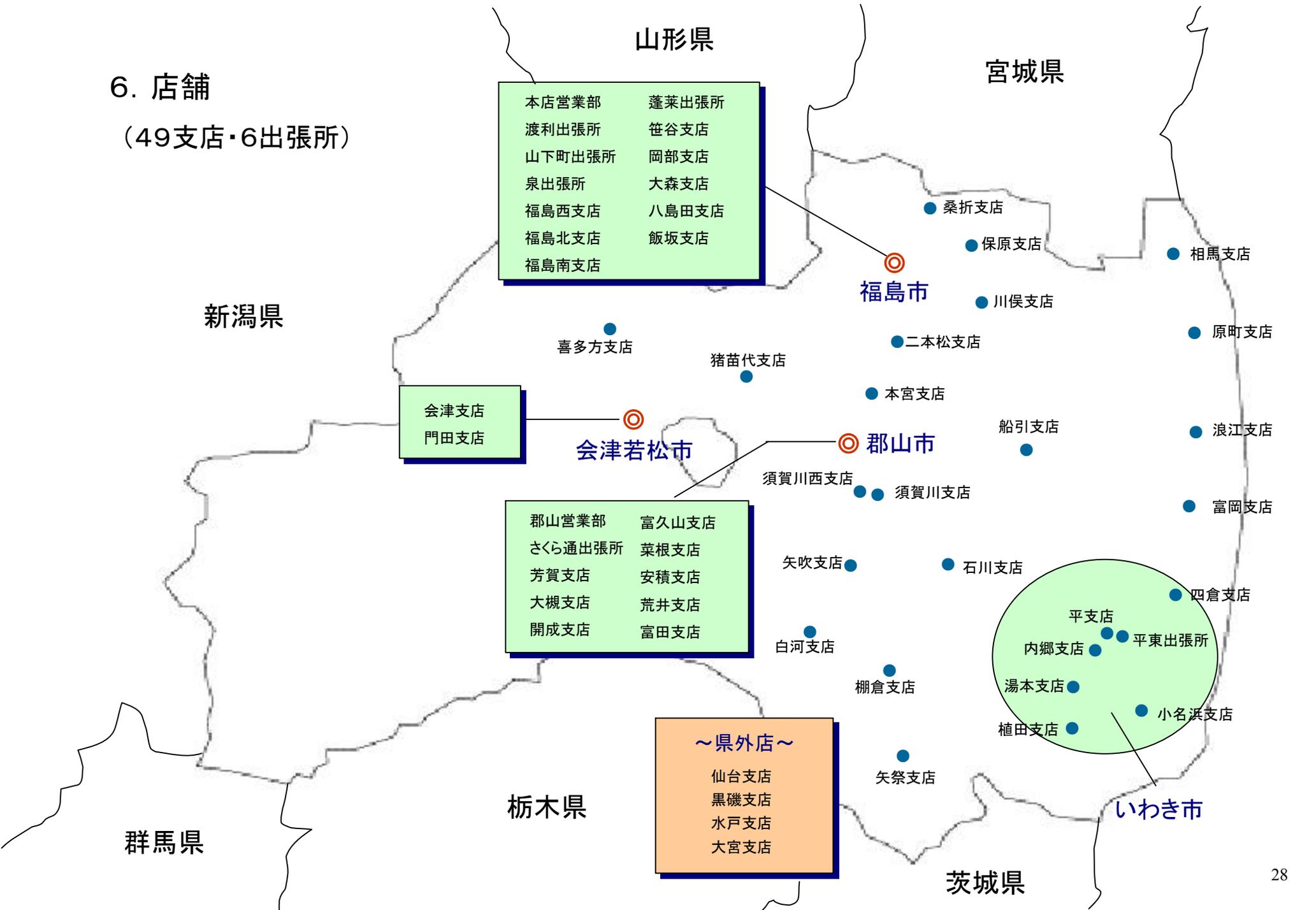


年代別

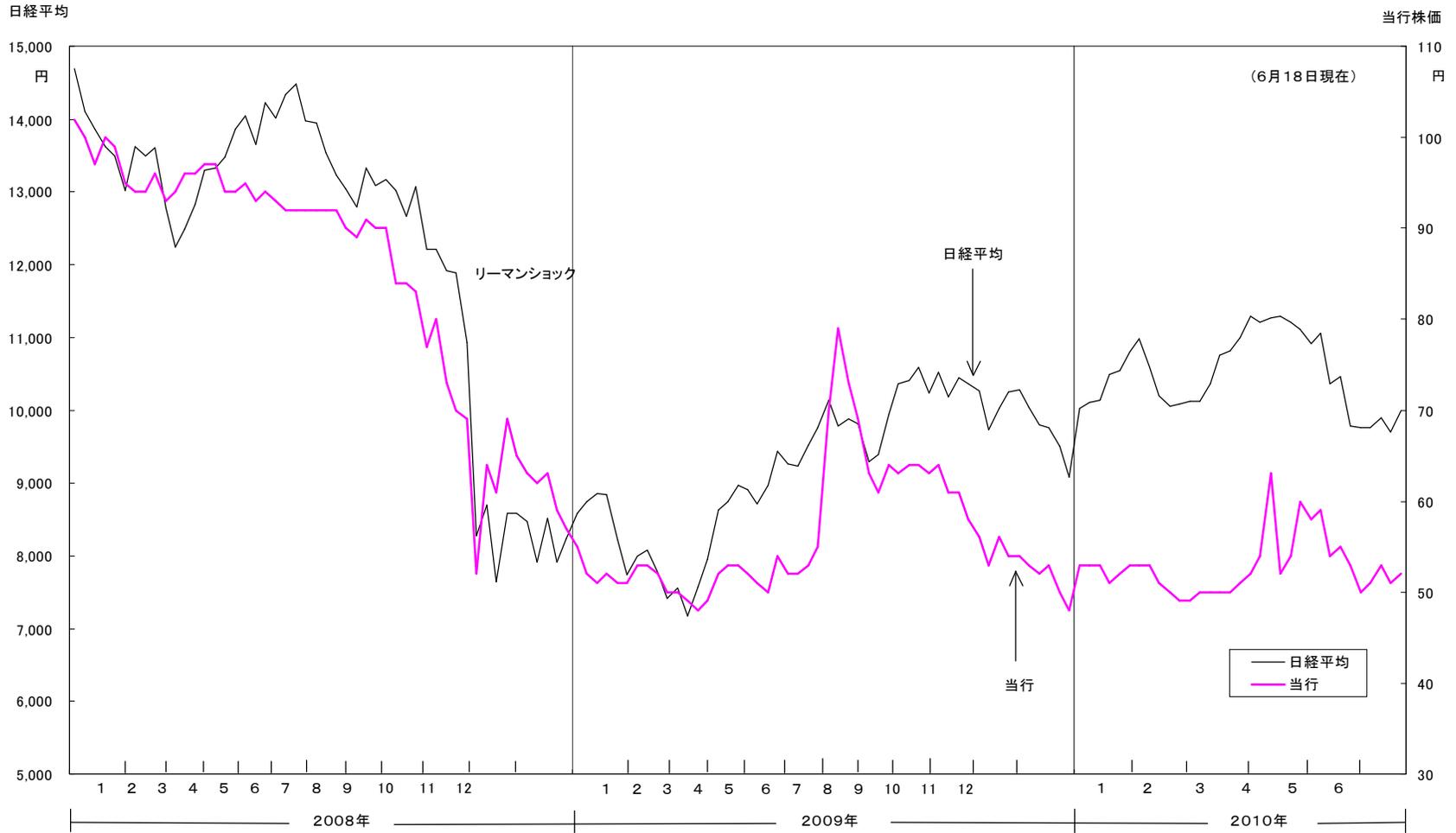


6. 店舗

(49支店・6出張所)



7. 株価(週足)



本資料には将来の業績に係る記述が含まれております。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は経営環境の変化などにより異なる可能性があることにご留意ください。

～お問い合わせ先～

株式会社福島銀行 経営企画室長 渡辺 敦雄

広報担当 井上 大樹

同 須藤 祐介

TEL: 024-525-2525 (代)

FAX: 024-536-5338

E-Mail: keiki@fukushimabank.co.jp

URL: <http://www.fukushimabank.co.jp>

以 上